
秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略
(総合計画後期基本計画リーディングプロジェクト)
平成28年度(2016年度)評価報告書(案)

平成29年8月

神奈川県秦野市

目 次

1	総合戦略の概要について・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	評価の趣旨及び方法について・・・・・・・・・・・・	4
3	具体的施策の評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
	基本目標 1 豊かな自然・良好な住環境づくりプロジェクト・・・・・・・・	9
	(1) 「はだの一世紀の森林づくり構想」の推進・・・・・・・・	11
	(2) 「水無川「風の道」構想」の推進・・・・・・・・	12
	(3) まちのコンパクト化と交通ネットワーク形成の推進・・・・・・・・	14
	基本目標 2 未来につなぐ出産・子育てプロジェクト・・・・・・・・	16
	(1) 産み育てる環境づくりの推進・・・・・・・・	18
	(2) 学び育つ教育環境づくりの推進・・・・・・・・	19
	(3) 子育て応援社会づくりの推進・・・・・・・・	23
	基本目標 3 安全・安心で人との絆を大切にするまちづくりプロジェクト・・	24
	(1) 災害・犯罪に強いまちづくりの推進・・・・・・・・	26
	(2) 生きがいを持って安心して暮らせるまちづくりの推進・・・・・・・・	28
	基本目標 4 にぎわいと交流を創出する地域経済活性化プロジェクト・・・・	32
	(1) 地域資源を生かした活力ある地域づくりの推進・・・・・・・・	34
	(2) 「秦野 S A (仮称) スマート I C を活かした周辺土地利用構想」の推進	37
4	外部評価の総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・	39

《外部評価に当たって》

秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（総合計画後期基本計画リーディングプロジェクト）については、国からの要請に基づき、内部における進行管理の妥当性、客観性を担保するため、今年度から外部評価を取り入れたものです。

このたび、外部評価を行う、秦野市行財政調査会は、「秦野市附属機関の設置等に関する条例」に規定されている市長の「附属機関」であり、具体的な審議は規則により設置された専門部会で行います。

その専門部会の一つである行財政経営専門部会では、市長からの諮問に基づき、市総合戦略（総合計画後期基本計画）の進行管理及び評価に関する事項を担っています。

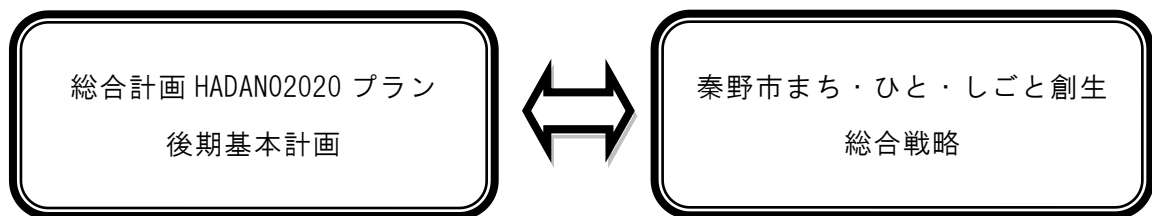
外部評価に当たっては、市総合戦略が、総合計画後期基本計画において、骨格を成すリーディングプロジェクト（基本計画全体をリードする誘導的・重点的な取組み）であることから、市総合戦略を評価することが、総合計画後期基本計画を評価するものとして、審議を行いました。

1 総合戦略の概要について

(1) 秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「市総合戦略」という。）は、「まち・ひと・しごと創生法」第10条に基づき、国の人口ビジョン及び総合戦略を勘案し、「秦野市人口ビジョン」で示した将来展望や目指すべき方向性の実現に向け、平成27年度から今後5か年において重点的に取り組むプロジェクトをまとめたものです。

本市では、都市像を「みどり豊かな暮らしよい都市^{まち}」として定め、その実現に向けてまちづくりに取り組んでいるところであり、秦野市総合計画HADANO2020プラン後期基本計画と一体的に取り組むことにより、地域資源を生かした活力あるまちづくりを目指します。



(2) 計画期間

総合計画HADANO2020プラン後期基本計画の実行期間は、平成28(2016)年度から32(2020)年度までの5年間としています。

市総合戦略は、国と地方が一体となって取り組み、その達成度を国において全国一斉に検証することになるため、市総合戦略は、国総合戦略と同様に平成27(2015)年度から31(2019)年度までの5年間としています。

(3) 総合戦略の構成

ア プロジェクト（基本目標）

国総合戦略が定める政策分野を勘案して、市総合戦略における政策分野を定め、5年後の基本目標（実現すべき成果に係る数値目標KGI※）を設定しています。

イ 講ずべき施策に関する基本的方向

基本目標を達成するために講ずべき施策の基本的方向を示しています。

ウ 具体的な施策と客観的な指標

基本的方向に沿って、具体的な施策を記載するとともに、各施策の効果を客観的に検証できるようにするため、重要業績評価指標（K P I ※）を設定しています。

（４） 目標の設定と効果検証の仕組み

市総合戦略は、若者や女性への支援、そしてまちづくりまで多岐にわたる分野について、横断的に取り組んでいくことが求められています。

そのため、事業の推進に当たっては、行政のみならず、市民や事業者、関係者等がそれぞれの役割と連携のもとで協働により取り組んでいく必要があります。

計画の進捗状況については、基本目標及び施策ごとにそれぞれ目標を設けるとともに、評価・検証し、必要に応じて取組内容を見直すP D C Aサイクルを重視して、その実効性を高めます。

	目標の設定内容	効果検証 時期	効果検証の 方法
基本 目標	実現すべき成果に係る数値目標 （K G I）	計画期間 終了後	有識者等による外部評価を経て、必要に応じて、戦略の見直しを行う
施策	重要業績評価指標（K P I） 検証による見直しもあり得る。	毎年	

※実現すべき成果に係る数値目標（K G I）…Key Goal Indicator の略称。目標を達成するための指標。

重要業績評価指標（K P I）…Key Performance Indicator の略称。施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標。

(5) プロジェクト（基本目標）及び講ずべき施策に関する基本的方向

市総合戦略では、人口減少と地域経済縮小を克服するため、地域の特色や地域資源を生かした方策について調査・検討を重ね、プロジェクト（基本目標）を次のとおり設定しました。

《プロジェクト（基本目標）体系図》



2 評価の趣旨及び方法について

(1) 評価の趣旨について

ア 基本的背景

市総合戦略では、国からの通知（技術的助言）や地方創生関連交付金の制度要綱により、学識経験者等の第三者の検証（意見）を求め、自己評価の透明性、客観性及び公正性を確保することが求められています。

イ P D C Aサイクルの構築

市総合戦略で掲げた施策について、その進捗状況の効果や課題を検証し、必要な見直しを図るため、P D C Aサイクルを構築し、変化し続ける行政需要に的確かつ柔軟に対応します。

ウ 市民等との共有

事業の推進に当たっては、行政のみならず、市民や事業者、関係者等がそれぞれの役割と連携のもとで協働により取り組んでいくことが必要であるため、評価結果（報告書）を公表し市民等と共有します。

(2) 評価の方法について

ア 自己評価について

市では、各部局において、市総合戦略における施策の最小単位である具体的施策77事業（小柱）の進捗状況について自己評価を行うとともに、中柱単位でK P Iの達成状況を検証し、4つの基本目標（大柱）ごとに自己評価の総括を行いました。

（自己評価の区分）

区 分		考え方
A	順調に進んでいる	すでに目標を達成している場合、事業の取組状況から総合的に見て、基本目標の達成に向けた取組みが順調なもの
B	概ね順調に進んでいる	基本目標の達成に向けた取組みが概ね順調なもの（目標値が前年度並み、又は上回っている場合など）
C	やや遅れている	基本目標の達成に向けた取組みがやや遅れているもの（目標値が前年度と比べ悪化している場合など）
D	遅れている	基本目標の達成に向けた取組みが遅れているもの（目標値が前年度と比べ悪化してお

		り、改善の取り組みが明確でない場合など)
--	--	----------------------

の
る
ま

※各部局における自己評価については、数値目標の達成状況をひとつ

基準としていますが、数値目標だけでは効果を測りきれない事業もある

ことから、課題や取り組み状況等を勘案して、総合的な評価となってい

ます。

イ 外部評価について

行財政経営専門部会では、4つの基本目標（大柱）ごとの市による自己評価の総括の内容が妥当であるか否かの評価を行いました。

3 具体的施策の評価

基本目標 1 豊かな自然・良好な住環境づくりプロジェクト

目的＞＞ 恵み豊かな自然を守り、育てながら、「秦野らしさ」が息づく快適な都市空間を創出し、「行ってみたい、暮らしてみたい」と思われるような魅力に満ちたまちづくりに取り組みます。

【実現すべき成果に係る数値目標（K G I）】

○年間転出超過者数 379 人（H26 現状値） → 0 人（H31 目標値）

○定住意向（住み続けたい、どちらかと言えば住み続けたいと考えている市民の割合）
91.4%（H26 現状値） → 95%（H31 目標値）

K P I（重要業績評価指標）の達成状況

1 「はだの一世紀の森林づくり構想」の推進

K P I	H31(2019) 目標値	H28(2016) 目標値	H28(2016) 実績値	達成率 H28(2016)
生き物の里での活動回数	55 回	50 回	65 回	130.0%
水源の森林エリアにおける森林整備（奥山を除く）面積	50ha	50ha	50ha	100.0%
植樹際、下草刈、県民参加の森林づくり事業など森林整備事業への市民参加数	1,050 人	950 人	621 人	65.4% （市民団体主催の事業中止による）

2 「水無川「風の道」構想」の推進

K P I	H31(2019) 目標値	H28(2016) 目標値	H28(2016) 実績値	達成率 H28(2016)
カルチャーパーク有料施設等来場者数（年間）	101 万人	98 万人	100 万人	102.0%
市道 6 号線の新規右折レーン設置数	1 か所	1 か所	1 か所	100.0%

3 まちのコンパクト化と交通ネットワーク形成の推進

K P I	H31(2019) 目標値	H28(2016) 目標値	H28(2016) 実績値	達成率 H28(2016)
秦野駅南口、鶴巻温泉駅南口周辺における都市基盤の整備面積	4.51ha	3.44ha	3.44ha	100.0%
商連に加盟している店舗数（年間）	745 店	745 店	706 店	94.8% （販売形態の多様化による）

《基本目標 1 に係る具体的施策（小柱）自己評価結果まとめ》

基本的方向	区 分		事業数
「はだの一世紀の森林づくり構想」の推進	A	順調に進んでいる	3 事業
	B	概ね順調に進んでいる	3 事業
	C	やや遅れている	-
	D	遅れている	-
小計			6 事業
「水無川「風の道」構想」の推進	A	順調に進んでいる	4 事業
	B	概ね順調に進んでいる	5 事業
	C	やや遅れている	-
	D	遅れている	1 事業
小計			10 事業
まちのコンパクト化と交通ネットワーク形成の推進	A	順調に進んでいる	2 事業
	B	概ね順調に進んでいる	4 事業
	C	やや遅れている	1 事業
	D	遅れている	-
小計			7 事業
合 計	A	順調に進んでいる	9 事業
	B	概ね順調に進んでいる	12 事業
	C	やや遅れている	1 事業
	D	遅れている	1 事業

※小柱の数 23 事業

市による自己評価の総括

B 概ね順調に進んでいる

具体的施策（小柱）23 事業のうち、A 評価（9 事業）及び B 評価（12 事業）の合計は 21 事業であり、K P I も 7 項目中 5 項目で目標値を達成していることから、施策は概ね順調に進んでいます。

外部評価

市による自己評価の総括は妥当です

- ・豊かな自然は「秦野らしさ」であり、他市にはない優位性があるので、プロジェクトのより一層の推進を期待します。
- ・林業、農業経営者の高齢化が進んでいる中で、担い手の確保・育成に向けたより一層の取り組みが必要です。
- ・販売形態が多様化している中で、ネット通販など個店を有しない事業者の実態を把握し、意欲もてる事業者支援を検討する必要があります。
- ・他機関との連携による商業・産業の育成に向けた施策の強化が必要です。（例・創業支援、インキュベーションルーム、チャンレンジショップ等）

(1) 「はだの一世紀の森林づくり構想」の推進

具体的な施策 (総合計画施策体系)		事業内容	平成 28 年度実績 (取り組み内容)	数値目標の達成状況 実績値 (H28 年度目標値 に対する達成率 %)	自己評価	自己評価の理由 (C 又は D 評価の場合は今後の対応 を明記)
1	生物多様性の保全 (1-1-1-1)	・生き物の里の指定や自然観察会などの活動支援 ・里地里山を活用した地域づくりの促進	・新たな生き物の里の候補地の指定に向けた調査・研究 ・自然観察会などの活動の支援を実施した。 ・里地里山を積極的に取り入れたイベントを上地区などで実施した。	【指標】 生き物の里での活動回数 H26 年度：50 回→ H32 年度：60 回 【H28 年度実績】 65 回 (対目標 130%)	B 概ね順調に進んでいる	数値目標は達成しているが、新たな候補地の指定に向けた調査・研究という課題があるため自己評価を B とした。
2	水源の森林づくり事業 (3-5-1-1)	・水源の森林エリア内（標高が概ね 300 m を超えるエリア）の森林管理者との「協力協約」や「活用協定」の締結 ・「協力協約等」に基づき森林所有者が行う森林整備への助成	・新たに協力協約等を締結した森林面積 62.40ha ・「協力協約等」を締結した森林所有者が行う、間伐や枝打ち、作業の整備などの適正な管理への助成	【指標】 水源の森林エリアにおける私有林の協力協約等の締結面積 H26 年度：1,475ha→ H32 年度：1,550ha 【H28 年度実績】 1,523ha (対目標 102%)	B 概ね順調に進んでいる	数値目標は達成しているが、事業主体が新たな制度である長期施業受委託制度を活用した森林整備に比重を移しているため、自己評価を B とした。
3	地場産木材の普及、活用 (3-5-1-3)	・秦野産材の需要拡大及び森林認証制度取得に向けた取組	・秦野産材活用推進協議会による秦野産材産地認証制度の運用 ・秦野産材の需要拡大に向けた取組 ・秦野産木材出荷実績 5,381 m ³	【指標】 秦野産木材出荷実績 H26 年度：2,870 m ³ → H32 年度：3,000 m ³ 【H28 年度実績】 5,381 m ³ (対目標 192%)	A 順調に進んでいる	数値目標を達成（100%以上）していることから、A 評価とした。
4	市民による森林づくりの推進 (3-5-2-1)	・市民主体の植樹・育樹・活樹事業を実施する。 ・また、平成 32 年度に予定されている育樹祭に取り組む。	・第 9 回秦野市植樹祭を弘法山で実施	【指標】 植樹数（累計） H26 年度：34,467 本→H32 年度：36,000 本 【H28 年度実績】 35,417 本 (対目標 101%)	A 順調に進んでいる	数値目標を達成（100%以上）していることから、A 評価とした。
5	ふるさと里山の整備 (3-5-2-2)	・森林所有者と「ふるさと里山整備事業協約」を締結し、市が所有者に代わり手入れを行う。	・森林整備（新規整備）31.42ha ・新規里山林整備面積（累計）480ha	【指標】 事業実施による新規里山林整備面積（累計） H26 年度：406ha→ H32 年度：556ha 【H28 年度実績】 480ha (対目標 100%)	A 順調に進んでいる	数値目標を達成（100%以上）していることから、A 評価とした。
具体的な施策		事業内容	平成 28 年度実績	数値目標の達成状況	自己評価	自己評価の理由

(総合計画施策体系)			(取り組み内容)	実績値 (対目標%)		
6	郷土を愛し、大切に する子どもの育成 (4-1-2-3)	<ul style="list-style-type: none"> ・秦野の自然や文化・歴史などを知る活動を通して、ふるさとを愛する心を育むとともに、自然環境に配慮した行動が取れる子どもを育成します。 ・はだのっ子アワード事業の推進 ・里地里山自然環境活用学習の推進 ・学校版環境 I S O「エコキッズはだの」の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・はだのっ子アワードでは、1月に表彰盾の授与を行い、その努力を顕彰した。 ・里地里山学習では、全 36 園校において地域資源を生かした自然体験型の活動を実践するとともに、年度末には各園校の取組みを活動実践書としてまとめた。 ・エコキッズはだのでは、P D C Aサイクル概念を活動に盛り込み、全 36 園校で「エコ活動」を中心とする環境活動を推進するとともに、環境教育研修講座を開催し、「衣」から考える環境活動について研修を深めた。 	【指標】 はだのっ子アワード表彰 児童生徒数累計 H26 年度：303 人→ H32 年度：530 人 【H28 年度実績】 403 人 (対目標 110%)	B 概ね順調に進んでいる	数値目標は達成しているが、引き続き、事業再編による拡充を課題として見ているため自己評価を B とした。

（２） 「水無川「風の道」構想」の推進

具体的な施策 (総合計画施策体系)		事業内容	平成 28 年度実績 (取り組み内容)	数値目標の達成状況 実績値 (H28 年度目標値 に対する達成率 %)	自己評価	自己評価の理由 (C 又は D 評価の場合は今後の対応 を明記)
7	市街地における緑 地の確保 (1-1-1-3)	<ul style="list-style-type: none"> ・樹林・樹木の保全の推進 ・みどり基金の充実・活用 ・民間施設と連携した緑地空間の創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・樹林・樹木の樹林保全地区等としての指定を継続実施した。 ・市街地の緑地保全への市民意識の高揚を図った。 	【指標】 樹林保全地区の指定面積 H26 年度：9.5ha→ H32 年度：9.8ha 【H28 年度実績】 9.7ha (対目標 99%)	B 概ね順調に進んでいる	数値目標を概ね達成 (75%以上) していることから、B 評価とした。
8	河川浄化活動の推 進 (1-1-3-5)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や学校と連携した水無川及び周辺の清掃活動の実施 ・河川浄化月間を中心とした清掃活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・葛葉川、大根川の美化清掃や金目川環境ウォークの実施 ・金目川、葛葉川で生物調査を実施 	【指標】 河川美化清掃等への参加者数 H26 年度：1,251 人→H 32 年度：1,300 人 【H28 年度実績】 1,088 人 (対目標 84%)	B 概ね順調に進んでいる	数値目標を概ね達成 (75%以上) していることから、B 評価とした。
9	環境美化の推進 (1-1-3-6)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民、各種団体等との協力による清掃活動の実施、清潔で美しいまちづくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみゼロクリーンキャンペーン (6/5 実施、410 人) ・市内一斉美化清掃 (9/1 実施) ・環境美化指導員による散乱ごみ回収量 (85,360 k g) ・清掃ボランティア登録者数 (36 団体、63 人) ・不法投棄パトロール日数 (115 日) 	【指標】 不法投棄撤去量 H26 年度：35 t → H32 年度：14 t 【H28 年度実績】 19 t (対目標 84%)	A 順調に進んでいる	平成 28 年度においては、矢坪沢など過去の相当期間に不法投棄されたものを地元要望で大量回収した影響により、数値目標は未達成となったが、それ以外の地域では不法投棄撤去量が減少しているため、自己評価を A とした。

具体的な施策 (総合計画施策体系)		事業内容	平成 28 年度実績 (取り組み内容)	数値目標の達成状況 実績値 (対目標%)	自己評価	自己評価の理由
10	歩道の整備 (1-2-1-3)	・市道 6 号線の歩道整備 (N o. 44 の事業に含む)	市道 6 号線など 4 路線の歩道整備 ・ 6 号線歩道整備 (ミライエ前、富士見大橋付近)	【指標】 歩道の整備延長 →H32 年度：1,700m 【H28 年度実績】 295m (対目標 55%)	D 遅れている	数値目標が未達成であるとともに、交付金事業の内示が要望額の半分程度であったため、事業の執行停止など進捗に影響が生じたことから、自己評価を D とした。 【今後の対応】 交付金事業について、補助金をより多く受けられる施策などを検討する。
11	秦野駅北口周辺の整備 (1-2-2-1)	・老朽中層建築物の建替え (支援、組合参加) ・駅前広場の再整備 (ペDESTリアンデッキの改良、自転車駐車場の建替え等) (N o. 18 の事業に含む)	・大秦ハイツマンション建替組合への補助等の支援 ・ペDESTリアンデッキの改良工事、自転車駐車場の基本設計	【指標】 駅周辺における都市基盤の整備面積 H26 年度：540 m ² → H32 年度：1,360 m ² 【H28 年度実績】 540 m ² (対目標 100%)	B 概ね順調に進んでいる	数値目標は達成しているが、一部の事業 (ペDESTリアンデッキの改良工事等) について、若干遅れが生じたため、自己評価を B とした。
12	安全で良好な住環境等の創出 (1-2-4-1)	・法令等による安全で良好な住環境等の創出	・都市計画法、建築基準法、土地の埋立て等の規制に関する条例、まちづくり条例等に基づく適切な指導による安全で良好な住環境等の創出	-	A 順調に進んでいる	法令等に基づく適切な指導により安全で良好な住環境等の創出が順調に進んでいるため自己評価を A とした。
13	カルチャーパークの適正な維持管理 (1-2-5-1)	・カルチャーパーク内の施設整備及び改修を実施	・中央運動公園：園路改修、休憩施設及びトイレ棟の建設、防犯カメラの設置など ・中央こども公園：ローラー滑り台の改修 ・じょうや児童遊園地：改修 ・臨時駐車場：第 6 駐車場整備、第 7 駐車場用地買収	【指標】 カルチャーパーク内の安全・安心及び利便性の向上を図った施設数 (累計) H26 年度：0 施設→ H32 年度：8 施設 【H28 年度実績】 5 施設 (対目標 100%)	A 順調に進んでいる	数値目標を達成 (100%以上) していることから、A 評価とした。
14	公園の整備と適正な維持管理 (1-2-5-3)	・公園のバリアフリー化に伴う改修や遊具安全の整備など ・公園及び緑地の維持管理 ・公園施設の長寿命化 ・いまがわちょう南公園 (仮称) の整備	・適正な維持管理…公園の出入口、広場の改修、遊具の修繕・交換 ・長寿命化事業…公園施設の長寿命化 ・新設公園の整備…いまがわちょう南公園 (仮称) の整備	【指標】 新設公園数 H29 年度：1 か所 【H28 年度実績】 0 か所 (対目標 100%)	A 順調に進んでいる	数値目標を達成 (100%以上) していることから、A 評価とした。

具体的な施策 (総合計画施策体系)		事業内容	平成 28 年度実績 (取り組み内容)	数値目標の達成状況 実績値 (対目標%)	自己評価	自己評価の理由
15	公園美化推進活動 の支援 (1-2-5-4)	・公園等美化ボランティア（里親制度） 団体の登録推進	・新規登録 2 団体、中止 1 団体	【指標】 公園美化ボランティア 団体数 H26 年度：46 団体→ H32 年度：58 団体 【H28 年度実績】 51 団体(対目標 102%)	B 概ね順調に 進んでいる	数値目標は達成しているが、1 団体の 中止があったため、自己評価を B とし た。
16	花のある観光地づ くりの推進 (3-3-1-4)	・水無川上流の桜の植樹及び育樹の推進 ・新たな花のある観光地づくりに取り組 む (N o. 64 の事業に含む)	・菜の花、ポピー、黄花コスモスをハイキ ングコース周辺の約 35,000 m ² に栽培し、 観光地の景観創出に努めた。 ・育樹事業として、おかめ桜の育樹祭の開 催や樹木医による育成状況診断を行った。	【指標】 栽培面積の拡大（農家と の契約栽培面積） H26 年度：12,744 m ² → H32 年度：15,000 m ² 【H28 年度実績】 26,789 m ² (対目標 203%)	B 概ね順調に 進んでいる	数値目標は達成しているが、ハイキン グコース周辺の開花内容が天候等に より良好ではなかったという課題が あるため自己評価を B とした。

(3) まちのコンパクト化と交通ネットワーク形成の推進

具体的な施策 (総合計画施策体系)		事業内容	平成 28 年度実績 (取り組み内容)	数値目標の達成状況 実績値 (H28 年度目標値 に対する達成率 %)	自己評価	自己評価の理由 (C 又は D 評価の場合は今後の対応 を明記)
17	「コンパクト・プ ラス・ネットワー ク」型都市構造の 推進 (1-2-2-5)	・「コンパクト・プラス・ネットワーク」 型都市構造を誘導するための指針とし て、都市再生特別措置法に基づく立地適 正化計画を策定する。 ・基礎データの収集・整理、都市機能誘 導区域・居住誘導区域の設定等	・基礎データの収集・整理 ・庁内検討組織における検討作業 ・作業部会 4 回、調整会議 2 回、政策会議 2 回実施 ・都市マスタープラン将来都市構造図の拠 点及び都市軸を中心とした検討を進める ことについて承認	-	B 概ね順調に 進んでいる	立地適正化計画の策定の取組みにつ いては、庁内合意を図り検討を進めて いるが、各分野別・地域別に継続して データの収集・整理を行い、方向性を 検討するという課題があるため自己 評価を B とした。
18	秦野駅北口周辺の 整備 (1-2-2-1)	・老朽中層建築物の建替え（支援、組合 参加） ・駅前広場の再整備（ペDESTリアンデ ッキの改良、自転車駐車場の建替え等） ・本町一丁目地内における県道拡幅代替 地の整備等 ・本町二丁目地内における狭あい道路の 改良	・大秦ハイツマンション建替組合への補助 等の支援 ・ペDESTリアンデッキの改良工事、自転 車駐車場の基本設計 ・県道拡幅代替地の取得に係る意向調査実 施 ・本町二丁目地区の道路拡幅に係る手法の 検討及び建替支援事業を検討	【指標】 駅周辺における都市基盤 の整備面積 H26 年度：540 m ² → H32 年度：1,360 m ² 【H28 年度実績】 540 m ² （対目標 100%）	B 概ね順調に 進んでいる	数値目標は達成しているが、一部の事 業（ペDESTリアンデッキの改良工事 等）について、若干遅れが生じたため、 自己評価を B とした。

具体的な施策 (総合計画施策体系)		事業内容	平成 28 年度実績 (取り組み内容)	数値目標の達成状況 実績値 (対目標%)	自己評価	自己評価の理由
19	秦野駅南部(今泉)土地区画整理事業の推進 (1-2-2-2)	・秦野駅南部(今泉)土地区画整理事業の推進 ・住宅の区域(C地区)における整備手法の検討及び道路や公園等の整備	・減価買収(1,122 m ²)、換地設計準備(今泉地区) ・整備手法検討(C地区:53条制限解除、道路線形、公園位置等の調整)	【指標】 整備面積 H26年度:0.26ha→ H32年度:4.37ha 【H28年度実績】 3.15ha(対目標100%)	C やや遅れている	数値目標は達成しているが、市施行による今泉地区の減価買収が当初予定の1箇年で完了とならなかったことから自己評価をCとした。 【今後の対応】 減価買収、換地設計、実施設計を着実に進め、早期の仮換地指定を行っていききたい。
20	鶴巻温泉駅南口周辺の整備 (1-2-2-3)	・駅前広場(街路)整備 ・広場周辺(土地区画整理)整備 ・県道立体横断施設等整備 ・南口橋上改札口整備 ・公衆便所の設置	・駅前広場整備・・・広場整備(擁壁)工事の発注 ・広場周辺(区画整理)整備・・・造成工事の完了、換地処分公告 ・県道立体横断施設整備・・・基礎杭工事の完了、上部工の工場製作 ・南口橋上改札口等整備・・・小田急による駅施設整備(新設跨線橋等の整備)	【指標】 整備面積 H26年度:1,070 m ² → H32年度:5,470 m ² 【H28年度実績】 5,470 m ² (対目標100%)	A 順調に進んでいる	数値目標を達成(100%以上)していることから、A評価とした。
21	効率性・利便性の向上を目指したバス路線網の再構築 (1-2-3-2)	・まちづくりと連携しながら、効率的で持続可能なバス路線網の再編に向けて検討する。 ・市民や来訪者にとって利用しやすいノンステップバスの導入を支援し、バス利用の促進を図る。	・市内バス路線網の再編について神奈川中央交通(株)と協議・検討 1回 ・ノンステップバスの導入支援 3台	-	B 概ね順調に進んでいる	ノンステップバスの導入支援3台については実施したが、バス路線網の再編については神奈川中央交通(株)と継続して協議・検討を行っていることから自己評価をBとした。
22	商店街空き店舗活用への支援 (3-2-1-1)	・商店街にある空き店舗を活用して開業した方で、優れたアイデア、経営方針を持ち、周辺地域の活性化が期待できる方に、事前審査を行った上で改装費、賃借料、広告宣伝費の一部を補助する。	・審査会年間3回実施 ・申込者9名うち合格者7名	【指標】 商店会店舗数 H26年度:745店→ H32年度:745店 【H28年度実績】 706店(対目標95%)	A 順調に進んでいる	数値目標は未達成であるが、空き店舗等活用事業補助金制度の利用者は増加しており、事業としては順調に進んでいるため、総合的な評価として自己評価をAとした。
23	4駅周辺の商業環境の形成 (3-2-2-3)	・4駅周辺の特性を生かした商店街づくりへの支援 ・秦野駅前通り整備を生かした商店街の活性化	・本町705周辺整備検討会商業振興委員会において、委員である周辺商業者と意見交換を実施	-	B 概ね順調に進んでいる	新たな誘客イベントの企画や名物商品の開発に関する打合せを行うなど、商店街の活性化に関する協議が概ね順調に進んでいるため、自己評価をBとした。

基本目標 2 未来につなぐ出産・子育てプロジェクト

目的＞＞ 妊娠、出産から育児までの切れ目ない支援を行うとともに、地域資源を生かした子育て・教育環境づくりや地域、社会全体で子育てを支援する仕組みづくりを進め、子どもたちの未来の創造に取り組みます。

【実現すべき成果に係る数値目標（K G I）】

○合計特殊出生率 1.25（H26 現状値） → 1.42（H31 目標値）

K P I（重要業績評価指標）の達成状況

1 産み育てる環境づくりの推進

K P I	H31(2019) 目標値	H28(2016) 目標値	H28(2016) 実績値	達成率 H28(2016)
出産前後の子育て教室に参加する家族の人数	450 人	375 人	396 人	105.6%
ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合 (1歳6か月児健康診査時調査)	88.0%	86.0%	85.4%	99.3% (養育者支援を必要とする家庭の増加等による)

2 学び育つ教育環境づくりの推進

K P I	H31(2019) 目標値	H28(2016) 目標値	H28(2016) 実績値	達成率 H28(2016)
学校支援ボランティアの協力者数(年間)	2,350 人	2,200 人	2,506 人	113.9%
タブレット型パソコンの導入台数	942 台	72 台	73 台	101.4%

3 子育て応援社会づくりの推進

K P I	H31(2019) 目標値	H28(2016) 目標値	H28(2016) 実績値	達成率 H28(2016)
定員超過により認可保育所等に入所できない児童の数 (4月1日時点)	0 人	0 人	0 人	100.0%
認定こども園の設置数	8 園	5 園	5 園	100.0%

《基本目標 2 に係る具体的施策（小柱）自己評価結果まとめ》

基本的方向	区 分		事業数
産み育てる環境づくりの推進	A	順調に進んでいる	-
	B	概ね順調に進んでいる	3 事業
	C	やや遅れている	2 事業
	D	遅れている	-
小計			5 事業
学び育つ教育環境づくりの推進	A	順調に進んでいる	2 事業
	B	概ね順調に進んでいる	8 事業
	C	やや遅れている	-
	D	遅れている	-
小計			10 事業
子育て応援社会づくりの推進	A	順調に進んでいる	2 事業
	B	概ね順調に進んでいる	3 事業
	C	やや遅れている	-
	D	遅れている	-
小計			5 事業
合 計	A	順調に進んでいる	4 事業
	B	概ね順調に進んでいる	14 事業
	C	やや遅れている	2 事業
	D	遅れている	-

※小柱の数 20 事業

市による自己評価の総括

B 概ね順調に進んでいる

具体的施策（小柱）20 事業のうち、A 評価（4 事業）及び B 評価（14 事業）の合計は 18 事業であり、K P I も 6 項目中 5 項目で目標値を達成していることから、施策は概ね順調に進んでいます。

外部評価

市による自己評価の総括は妥当です

- ・ 秦野赤十字病院の分娩業務の早期再開に向け、より一層取組みを進める必要があります。
- ・ 周産期医療体制の遅れに合わせて、産婦人科医師確保に向けた予算化を繰り延べしているが、施策遂行のファーストステップとしての積極的な財政出動を検討する必要があります。
- ・ 事業内容が多岐に亘る施策については、事業実施時にアンケート調査等を行い、参加市民の声（評価、課題等）をこまめに記録するなど、事業に対する市民の評価をまとめておく必要があります。

(1) 産み育てる環境づくりの推進

具体的な施策 (総合計画施策体系)		事業内容	平成 28 年度実績 (取り組み内容)	数値目標の達成状況 実績値 (H28 年度目標値 に対する達成率 %)	自己評価	自己評価の理由 (C 又は D 評価の場合は今後の対応 を明記)
24	安心して妊娠・出産ができる保健体制の充実 (2-1-1-1)	<ul style="list-style-type: none">・ 特定不妊・不育症治療費助成・ 妊婦健康診査費用助成と受診勧奨・ 妊産婦・新生児訪問指導の継続実施・ 妊娠・包括支援事業（子育て世代包括支援センターの設置）・ 父親母親教室の継続実施・ 産後ケア事業の推進	<ul style="list-style-type: none">・ 産後ケア事業の実施に向けて検討会 2 回実施し、候補事業者との打合せを行った。・ 子育て世代包括支援センターにおいて、全妊婦との関係づくり、継続的な支援の充実に努めた。・ 妊娠届出妊婦数 1,048 件・面接実人数 1,047 人・電話支援実人数 266 人・ その他、特定不妊治療、妊婦健康診査費用助成、妊産婦・新生児訪問指導、父親母親教室については、現状に合った支援に努めた。	【指標】 出産前後の子育て教室に参加する家族の人数 H26 年度：349 人→ H32 年度：475 人 【H28 年度実績】 396 人（対目標 106%）	C やや遅れている	数値目標は達成していて、子育て世代包括支援センターとしての事業などは順調に進んでいるが、産後ケア事業の開始に至らなかったため、自己評価 C とした。 【今後の対応】 候補事業者との連絡・調整を図り、引き続き情報収集を行い、検討会を活用して産後ケア事業が開始できるよう努める。
25	健診の場を活用した子育て支援の充実 (2-1-1-2)	<ul style="list-style-type: none">・ 乳幼児健康診査（集団）の 4 か月児、7 か月児、1 歳児、1 歳 6 か月、2 歳児、3 歳 6 か月児における、子育てに関する相談、知識の普及啓発の充実・ 1 歳児健康診査（個別）は受診医療機関との連携による子育て支援・ 支援の必要な親子の早期発見・早期対応	乳幼児健康診査の実施 受診者数（受診率%） <ul style="list-style-type: none">・ 集団方式（各年 24 回実施）：4 か月児 1,044 人（99.0%）、7 か月児 1,078 人（98.4%）、1 歳 6 か月児 1,168 人（96.9%）、2 歳児 1,124（94.1%）、3 歳 6 か月児 1,173 人（93.2%）・ 個別方式（随時委託医療機関にて実施）：1 歳児 1,096 人（95.0%） ※国の「健やか親子 21（第 2 次）」の指標に係る問診項目を、4 月より追加実施しているが、混乱なく円滑に実施できた。	【指標】 ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合（1 歳 6 ヶ月児健康診査時調査） H26 年度：84.6%→ H32 年度：88.0% 【H28 年度実績】 85.4%（対目標 99%）	B 概ね順調に進んでいる	数値目標を概ね達成（75%以上）していることから、B 評価とした。
26	子ども・子育て環境の充実 (2-1-2-1)	<ul style="list-style-type: none">・ 一時預かり事業、病後児保育事業等の拡充・ 保育コンシェルジュによる保育サービスの利用者支援	<ul style="list-style-type: none">・ 一時預かり事業、病後児保育事業等の拡充は、未実施・ 保育コンシェルジュによる保育サービスの利用者支援を実施	-	B 概ね順調に進んでいる	一時預かり事業及び病後児保育事業は、平成 27 年度の継続事業として実施したが、実施園を増やすなど、拡充する取組みはできなかった。 一方で、保育コンシェルジュが窓口、電話等で保育を希望する保護者の相談に応じ、それぞれのニーズに応じた保育サービスの支援を実施することができたため、総合的な評価として自己評価を B とした。

具体的な施策 (総合計画施策体系)		事業内容	平成 28 年度実績 (取り組み内容)	数値目標の達成状況 実績値 (対目標%)	自己評価	自己評価の理由
27	小児から成人までの救急医療体制の充実 (2-3-4-2)	・休日や夜間における救急診療体制の維持・強化	・秦野伊勢原救急医療対策協議会秦野部会の開催 (2 回) ・その他輪番の調整等を実施 ・初期救急及び 2 次救急に関する各種補助金の支出	【指標】 365 日 24 時間の二次救急医療体制 H26 年度：100%→ H32 年度：100% 【H28 年度実績】 100% (対目標 100%)	B 概ね順調に進んでいる	数値目標は達成しているが、市内での救急搬送受け入れ件数の減少という課題があるため自己評価を B とした。
28	周産期医療体制の整備及び維持に対する支援 (2-3-4-6)	・関係機関との連携、国・県への要望による整備支援 ・周産期医療体制の整備に対する支援策の実施 ・整備された周産期医療体制の維持に対する支援策の実施	・秦野赤十字病院の分娩業務再開に向けた関係機関との協議を適宜実施 ・八木病院の新築移転計画実現に向けた協議を適宜実施	【指標】 市民の市内施設での分娩割合 H26 年度：59%→ H32 年度：60% 【H28 年度実績】 28% (対目標 71%)	C やや遅れている	数値目標がやや未達成(75%未満)であることから、C 評価とした。 【今後の対応】 大学医局から産婦人科医師の派遣を受けやすくする仕組みとして、県が中心となり、県内の医科大学が開設する「寄附講座」への支援を行うことが有効と考えているので、県への要望を行うとともに、本市単独での支援も検討していく。

(2) 学び育つ教育環境づくりの推進

具体的な施策 (総合計画施策体系)		事業内容	平成 28 年度実績 (取り組み内容)	数値目標の達成状況 実績値 (H28 年度目標値に対する達成率 %)	自己評価	自己評価の理由 (C 又は D 評価の場合は今後の対応を明記)
29	幼少中一貫教育の推進 (4-1-1-1)	・幼小中一貫教育の視点で、小・中学校児童生徒への教科指導による基礎的・基本的事項の内容理解及び定着をより一層図る。 ・学力定着・向上の取組の推進 ・体力向上の取組の推進 ・資質向上のための研究・研修事業の推進	・平成 23 年度から 28 年度までの幼小中一貫教育の報告書を作成し、今後の計画を見直した。教育課程研究で堀川小が授業公開発表会、学びを高める授業研究で本町小・広畑小・北中が授業公開発表会をして成果や課題を全校と共有した。 ・体力向上の取組では、鶴巻小で体力向上キャラバン隊を実施し、各校と体力向上につながる方法等を伝達及び共有した。 ・幼小中体力向上部会では、「サーキットトレーニング」の開発、運用準備が進んだ。	【指標】 授業がわかると回答した割合 (全国学力・学習状況調査) H26 年度：71%→ H32 年度：80% 【H28 年度実績】 74% (対目標 99%)	B 概ね順調に進んでいる	数値目標を概ね達成(75%以上)していることから、B 評価とした。

具体的な施策 (総合計画施策体系)		事業内容	平成 28 年度実績 (取り組み内容)	数値目標の達成状況 実績値 (対目標%)	自己評価	自己評価の理由
30	いじめ・不登校対策の推進 (4-1-1-2)	・いじめの未然防止、早期発見、早期対応についていじめ防止基本方針に基づく取り組みを推進するとともに、不登校及び不登校傾向にある児童生徒の将来の社会的自立に向け、学校生活・社会生活に適応できるように支援を行う。	・いじめ・不登校への対応のために、小・中学校へ臨床心理士等を派遣 (120 時間) して専門的な助言を受け、子どもへの適切な支援につなげることができた。 ・「秦野市いじめ問題対策連絡協議会」(9 月・2 月)、「秦野市いじめ問題対策調査委員会」(5 月・8 月・10 月)を開催し、いじめ等の対策を総合的に推進した。 ・各関係機関、在籍校、保護者等と連携した教育支援教室等の運営を通して、子どもや保護者に寄り添い、適切な支援に努めた。	【指標】 認知したいじめの年度内における改善率 H26 年度: 98%→ H32 年度: 100% 【H28 年度実績】 100% (対目標 100%)	B 概ね順調に進んでいる	数値目標は達成しているが、いじめ問題は、児童生徒の新しい傾向や、保護者が抱える課題に対応しての支援が必要になってきている。そのため、関係機関・地域とどのように連携・協働し、深めていくのかという課題があるため自己評価を B とした。
31	幼児教育の充実 (4-1-1-7)	・子ども子育て支援新制度の中の「一時預かり事業(幼稚園型)」の実施及び幼稚園巡回教育相談員の派遣 ・公立幼稚園の認定こども園化(民営)等の推進	・幼稚園全園において長期休業期間を含め、一時預かり事業を実施した。延べ利用者数 15,707 人、実利用者数 4,331 人 ・幼稚園巡回教育相談員派遣 9 園 54 回の実施 ・上幼稚園を上小学校に移転させ、施設の一体化を図った。(上小学校の改修及び園庭の整備を実施) ・みなみがおか幼稚園を公私連携幼保連携型認定こども園とするため、庁内検討委員会を設置し、こども園化に係る基本方針の策定、こども園を運営する法人(以下「運営法人」という。)を選定するための募集要項及び審査基準の作成を行うとともに、公私連携法人の募集を開始した。	【指標】 一時預かり事業(幼稚園型)年間延べ利用人数 H26 年度: 13,831 人→H32 年度: 23,000 人 【H28 年度実績】 15,707 人(対目標 73%)	B 概ね順調に進んでいる	数値目標は未達成であるが、3 つの事業のうち、その他の 2 つの事業については、当初の計画どおり進んでいるため、総合的な評価として自己評価を B とした。
32	家庭・地域との協働による学校づくりの取り組み (4-1-2-1)	・学校を中心とした地域のネットワークを創り、地域の方の経験を生かした教育活動等への支援に取組み、幼児、児童、生徒の一貫した子どもの豊かな成長や地域の活性化を図る。 ・学校支援づくりの推進 ・防災教育の推進	・西中学校をコミュニティ・スクールに指定、堀川小学校を研究実践校に指定し、地域とともにある学校づくりを推進した。西中学校では地域支援者が増え、生徒たちと地域の交流が活性化された。 ・防災教育の意識向上を図るため教育向けの研修会を実施したり、中学校区懇談会等で子どもたちの発達の段階に考慮した防災教育を推進した。	【指標】 学校支援ボランティアの協力者数(年間) H26 年度: 2,122 人→ H32 年度: 2,400 人 【H28 年度実績】 2,506 人(対目標 114%)	B 概ね順調に進んでいる	数値目標は達成しているが、コミュニティ・スクール学校運営協議会設立に向けた研究実践校を複数校想定していくことが必要という課題があるため自己評価を B とした。

具体的な施策 (総合計画施策体系)		事業内容	平成 28 年度実績 (取り組み内容)	数値目標の達成状況 実績値 (対目標%)	自己評価	自己評価の理由
33	郷土を愛し、大切に する子どもの育成 (4-1-2-3)	<ul style="list-style-type: none"> ・秦野の自然や文化・歴史などを知る活動を通して、ふるさとを愛する心を育むとともに、自然環境に配慮した行動が取れる子どもを育成します。 ・はだのっ子アワード事業の推進 ・里地里山自然環境活用学習の推進 (No. 6 の事業と同じ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・はだのっ子アワードでは、1 月に表彰盾の授与を行い、その努力を顕彰した。 ・里地里山学習では、全 36 園校において地域資源を生かした自然体験型の活動を実践するとともに、年度末には各園校の取り組みを活動実践書としてまとめた。 ・エコキッズはだのでは、P D C A サイクル概念を活動に盛り込み、全 36 園校で「エコ活動」を中心とする環境活動を推進するとともに、環境教育研修講座を開催し、「衣」から考える環境活動について研修を深めた。 	【指標】 はだのっ子アワード表彰 児童生徒数累計 H26 年度：303 人→ H32 年度：530 人 【H28 年度実績】 403 人 (対目標 110%)	B 概ね順調に進んでいる	数値目標は達成しているが、引き続き、事業再編による拡充を課題として見ているため自己評価を B とした。
34	西中学校体育館等 複合施設整備事業 (4-1-3-1)	<ul style="list-style-type: none"> ・西中学校体育館等の老朽化に伴う建替えに際して、新たな地域コミュニティの機能のほか、地域防災等の必要な機能を兼ね備えた多機能型体育館として整備する。(平成 32 年度供用開始の計画) 	<ul style="list-style-type: none"> ・整備構想の策定作業 (平成 29 年 5 月 策定済み) 	-	B 概ね順調に進んでいる	整備構想の策定は、平成 2 9 年 5 月となったが、整備構想を踏まえた基本設計については、計画どおり着手したため、自己評価を B とした。
35	学校施設の長寿命 化の推進 (4-1-3-2)	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の経過年数に応じて建物や付帯設備の改修や更新などにより、学校施設の長寿命化のための計画的な改修工事を行う。 	学校施設の計画的な改修事業を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校 7 件 ・中学校 3 件 ・幼稚園 2 件 	-	A 順調に進んでいる	国庫補助事業等を活用して財源の確保に努めながら、計画的に学校施設の改修事業を実施しているため、自己評価を A とした。
36	教材整備等による 教育環境の充実 (4-1-3-4)	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校教育に必要な教材・教具の整備 ・学校における I C T 教育の環境整備の推進 ・学校図書館充実のための学校司書の拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年度に小・中学校に導入した、校務用パソコン 111 台を更新すると同時に校長・事務職用の内部事務系パソコンや学校司書用のパソコン 65 台を整備した。 ・特色ある学校づくり研究校に教員用及び児童用タブレット端末 40 台を導入すると同時に貸出用として教育委員会にタブレット端末 10 台を導入した。 ・小中学校への学校司書を継続して配置した。 	【指標】 学校における情報機器類の更新 H26 年度：3 台→ H32 年度：942 台 【H28 年度実績】 73 台 (対目標 101%)	B 概ね順調に進んでいる	数値目標は達成しているが、中学校においてはタブレット端末の導入方法を慎重に検討する必要があるため、自己評価を B とした。

具体的な施策 (総合計画施策体系)		事業内容	平成 28 年度実績 (取り組み内容)	数値目標の達成状況 実績値 (対目標%)	自己評価	自己評価の理由
37	子ども読書活動の 推進 (4-2-1-7)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や公民館、ボランティア等と協働して、子どもたちが読書に親しむ環境づくりの整備や事業を推進する。 ・子ども読書通帳の作成や、おはなし会の開催を通して、子どもの読書活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート実施状況 回数 24 回/年、参加者数 1,076 人 ・こども読書週間実施行事 本のおたのしみ袋、図書館クイズラリー、企画展示、喫茶コーナー、映画会、おはなし会 ・子ども読書通帳配布数 1,193 冊 ・各種おはなし会（赤ちゃんといっしょのおはなし会 22 回/年、英語のおはなし会 10 回/年、昔話のおはなし会 12 回/年、おはなし会 30 回/年） ・学校司書交流会への参加 2 回/年 ・その他（見学等の受入、学校・児童ホーム等へ団体貸出、講演会・講座の開催） 	【指標】 子ども読書通帳の配布数 H26 年度：0 冊→ H32 年度：1,000 冊 【H28 年度実績】 1,193 冊(対目標 119%)	B 概ね順調に進んでいる	数値目標は達成しているが、子ども読書活動全体での取組みとして整理、検証していく必要があるため自己評価を B とした。
38	広域連携による青少年育成事業の推進 (5-3-3-2)	<ul style="list-style-type: none"> ・1 市 4 町 1 村（秦野市、中井町、二宮町、松田町、大井町、清川村）の広域連携による、中学生交流洋上体験研修事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・広域連携中学生交流洋上体験研修事業の実施 (平成 28 年 8 月 2 日～4 日 91 人参加) 	-	A 順調に進んでいる	事業後に行なっているアンケートにおいて、交流を深めることができたという声が 9 割近く、また、継続の声も多くあがっており、事業自体も大きな事故等なく順調に進んでいるため、自己評価を A とした。

(3) 子育て応援社会づくりの推進

具体的な施策 (総合計画施策体系)		事業内容	平成 28 年度実績 (取り組み内容)	数値目標の達成状況 実績値 (H28 年度目標値 に対する達成率 %)	自己評価	自己評価の理由 (C 又は D 評価の場合は今後の対応 を明記)
39	子ども・子育て環境の充実 (2-1-2-1)	・認定こども園及び認可保育所の定員拡大、家庭的保育・小規模保育等地域型保育事業の充実	・認可保育所の定員拡大(定員 202 人増)、家庭的保育・小規模保育等地域型保育事業の充実 (既設施設の運営に関する、国・県・市からの給付費(賃借料加算)の増額) ・市保育所用地の活用について公立幼稚園の運営・配置実施計画と整合を図り事業を実施 (行政財産を普通財産化するための手続きを段階的に実施)	【指標】 定員超過により認可保育所等に入所できない児童の数 H26 年度：8 人→ H32 年度：0 人 【H28 年度実績】 0 人 (対目標 100%)	B 概ね順調に進んでいる	数値目標は達成しているが、平成 29 年 4 月 1 日時点では再び 49 人の待機児童が生じたため、自己評価を B とした。
40	医療費助成の充実 (2-1-2-3)	・小児医療費助成：小児等を養育している者に医療費の一部を助成するとともに、対象年齢等の見直しの検討を加える。 ・ひとり親家庭等医療費助成事業：ひとり親家庭等に医療費の一部を助成する。	・小児医療費助成事業：引き続き、保険適用を受ける医療費の自己負担分の助成を実施するとともに、通院助成対象年齢(「小学 4 年生まで」を「小学 6 年生まで」に拡大)を拡大した。	-	A 順調に進んでいる	通院助成対象年齢を小学 6 年生までに拡大することで、市内に住む児童の福祉に資することができたため、自己評価を A とした。
41	定住化促進住宅の整備 (2-1-2-5)	・取得した既存民間賃貸住宅の改修を行った後に、若年夫婦や子育て夫婦を対象に一定期間住宅を供給し、本市への定住の足掛かりとなるよう活用する。	・建物の全面改修が完了し、入居募集を開始した。平成 29 年 3 月 31 日現在で全 57 戸中 46 戸の申し込みがあった。	-	A 順調に進んでいる	定住化促進住宅の入居申込の状況が順調であるため自己評価を A とした。
42	親子三世代の同居・近居を支える環境整備 (2-1-2-6)	・子育て支援の観点から「三世代同居・近居」の希望を実現するための支援を行う。	・親子三世代が同居又は近居する世帯への支援の検討	-	B 概ね順調に進んでいる	事業開始に向け検討段階であるため、具体的な数値目標は設定できないが、補助財源や補助内容について、他市事業を参考に調査し、事業開始に向けて準備を進めているため、総合的な評価として自己評価を B とした。
43	仕事と生活の調和の推進(ワーク・ライフ・バランス) (5-2-2-1)	・用語及び理念の周知、周知度の計測 ・情報や学習機会の提供	・仕事と生活の調和の実現に向けての情報提供、啓発活動 ・市民向けアンケート調査の実施	【指標】 仕事と生活の調和という用語の周知度(アンケート) H26 年度：27%→ H32 年度：35% 【H28 年度実績】 29% (対目標 97%)	B 概ね順調に進んでいる	数値目標を概ね達成(75%以上)していることから、B 評価とした。

基本目標3 安全・安心で人との絆を大切にするまちづくりプロジェクト

目的＞＞ 全ての市民が生きがいを持って、安全で安心して暮らすことができる、人と人との絆を大切にするまちづくりに取り組みます。

【実現すべき成果に係る数値目標（K G I）】

○秦野警察署管内刑法

犯認知件数（年間） 1,211 件（H26 現状値） → 1,050 件（H31 目標値）

○要介護等認定率 13.8%（H26 現状値） → 15.8%（H31 目標値）

K P I（重要業績評価指標）の達成状況

1 災害・犯罪に強いまちづくりの推進

K P I	H31(2019) 目標値	H28(2016) 目標値	H28(2016) 実績値	達成率 H28(2016)
消費者教室や講座などが受講できる件数（年間）	42 件	33 件	26 件	78.8% （出前講座の減少による）
防災講演会等の参加者数	5,700 人	-	3,920 人	※68.8% （防災フォーラム等の参加者の減少による）
空家等対策計画の策定	計画策定	策定	策定	100.0%

※H31 年度に対する達成率

2 生きがいを持って安心して暮らせるまちづくりの推進

K P I	H31(2019) 目標値	H28(2016) 目標値	H28(2016) 実績値	達成率 H28(2016)
地域のバランスに配慮した子育て支援センター「ぼけっと21」の数	7 箇所	7 箇所	7 箇所	100.0%
要援護実施者で市内外のグループホームの入居者	153 人	141 人	158 人	112.1%
高齢者の見守りと状況を把握する「在宅ひとり暮らし高齢者等登録」の推進（登録世帯数）	5,600 世帯	5,265 世帯	4,719 世帯	89.6% （制度の周知不足による）

《基本目標３に係る具体的施策（小柱）自己評価結果まとめ》

基本的方向	区 分		事業数
災害・犯罪に強いまちづくりの推進	A	順調に進んでいる	2 事業
	B	概ね順調に進んでいる	3 事業
	C	やや遅れている	-
	D	遅れている	1 事業
小計			6 事業
生きがいを持って安心して暮らせるまちづくりの推進	A	順調に進んでいる	4 事業
	B	概ね順調に進んでいる	7 事業
	C	やや遅れている	-
	D	遅れている	-
小計			11 事業
合 計	A	順調に進んでいる	6 事業
	B	概ね順調に進んでいる	10 事業
	C	やや遅れている	-
	D	遅れている	1 事業

※小柱の数 17 事業

市による自己評価の総括

B 概ね順調に進んでいる

具体的施策（小柱）17 事業のうち、A 評価（6 事業）及び B 評価（10 事業）の合計は 16 事業であり、K P I も 6 項目中半数の 3 項目で目標値を達成していることから、施策は概ね順調に進んでいます。

外部評価

市による自己評価の総括は妥当です

- ・国庫補助金を充当する事業について、国の内示額に左右されず、ソフト面でのカバーや事業の優劣を付けて執行するなどの対応策を検討する必要があります。
- ・K P I が未達成の事業については、防災、防犯、地域コミュニティ形成等、市民の積極的な参加が必要なため、事業の周知・広報手法に工夫が必要です。

(1) 災害・犯罪に強いまちづくりの推進

具体的な施策 (総合計画施策体系)		事業内容	平成 28 年度実績 (取り組み内容)	数値目標の達成状況 実績値 (H28 年度目標値 に対する達成率 %)	自己評価	自己評価の理由 (C 又は D 評価の場合は今後の対応 を明記)
44	歩道の整備 (1-2-1-3)	・歩行者の安全を確保するための歩道設置、電線類の地中化	市道 6 号線など 4 路線の歩道整備 ・ 6 号線歩道整備 (ミライエ前、富士見大橋付近) ・ 12 号線 (旧市営住宅跡地の一部) ・ 424 号線 (鶴巻温泉駅付近)	【指標】 歩道の整備延長 → H32 年度 : 1,700m 【H28 年度実績】 295m (対目標 55%)	D 遅れている	数値目標が未達成であるとともに、交付金事業の内示が要望額の半分程度であったため、事業の執行停止など進捗に影響が生じたことから、自己評価を D とした。 【今後の対応】 交付金事業について、補助金をより多く受けられる施策などを検討する。
45	地域防災体制の整備・強化 (2-5-1-2)	・防災講演会の開催や実践的な防災訓練の実施 ・避難所運営組織や避難行動要支援者への実効性ある支援体制づくり	・総合防災訓練 (19,580 人参加)、水害対策訓練 (鶴巻地区 44 人参加)、土砂災害対策訓練 (北地区 42 人参加) 及び避難所運営訓練 (23 か所・749 参加) ・防災講演会等の開催 (64 回) ・市内 23 か所全ての避難所運営委員会の開催 ・避難行動要支援者名簿の更新 (年 2 回)、登録者へ通知 (632 件)	【指標】 防災講演等の参加者数 H26 年度 : 4,871 人 → H32 年度 : 5,850 人 【H28 年度実績】 3,920 人 (対目標 69%)	B 概ね順調に進んでいる	数値目標は未達成であるが、避難所運営委員会の開催や各種訓練など、事業については概ね順調に進んでいるため自己評価を B とした。
46	空家等対策の推進 (2-5-1-6)	・「空家等対策計画」等の策定 ・特定空家等に対する助言、指導等の実施 ・空家等の有効活用についての検討	・空家等対策計画及び特定空家等判定基準の策定 ・「空家等対策の推進に関する特別措置法」に基づき策定した空家等対策計画の取り組みを推進することとし、現時点で、条例は制定はしない。 ・特定空家と認定する空家はなかったが、管理が適切に行われていない空家等への指導等を実施した。 ・ホームページ等で空家対策を情報発信するとともに、不動産関係団体と連携し、空家バンク制度の検討を開始した。	【指標】 特定空家等の認定件数 H26 年度 : 0 件 → H32 年度 : 0 件 【H28 年度実績】 0 件 (対目標 100%)	B 概ね順調に進んでいる	数値目標は達成しているが、特定空家ではない空家等への対応は継続的な課題となるため自己評価を B とした。

具体的な施策 (総合計画施策体系)		事業内容	平成 28 年度実績 (取り組み内容)	数値目標の達成状況 実績値 (対目標%)	自己評価	自己評価の理由
47	火災予防の推進 (2-5-2-5)	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅用火災警報器の設置促進及び維持管理並びに住宅用防災機器の普及などの住宅防火対策の促進 ・事業所の防火管理体制の強化促進 ・民間防火団体の育成強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭防火クラブ正副会長会議・研修会実施 (49 名) ・防火管理者取得講習会実施 (99 名) ・初期消火コンクール実施 (15 チーム・45 名) ・高齢者世帯の講習会実施 (67 名) ・秋・春の火災予防運動実施、市民の日消防コーナー開設 (住宅用火災警報器アンケート 400 件・子供啓発コーナー来場 350 名) ・住宅用防災機器の設置及び住宅用火災警報器の維持管理の講習会等開催 (2 回・108 名) ・消防査察の実施 (413 件) 	-	A 順調に進んでいる	住宅等防火対策などの事業が順調に進んでいるため自己評価を A とした。
48	防犯活動の推進 (2-5-3-4)	<ul style="list-style-type: none"> ・警察、市民、防犯関係団体との連携、協働による防犯活動の推進 ・防犯キャンペーン等を通じた防犯意識の高揚、防犯パトロール体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・各期 (春、夏、秋、年末年始) 地域安全運動及び青パト巡回によるパトロールの実施 ・各地区ふれあいまつり防犯コーナー開設 (9 会場) ・自転車盗難被害防止キャンペーン、駅周辺合同防犯パトロール (秦野駅、渋沢駅) の実施 	【指標】 年間犯罪発生件数 H26 年度：1,211 件→ H32 年度：1,000 件 【H28 年度実績】 761 件 (対目標 158%)	A 順調に進んでいる	数値目標を達成 (100%以上) していることから、A 評価とした。
49	消費者被害未然防止のための啓発活動の充実 (2-5-4-1)	<ul style="list-style-type: none"> ・消費生活講座・教室の開催 ・消費生活に関する情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・暮らしの講座 8 回、中学生消費生活講座 5 回、親子消費者講座 1 回、出前講座 3 回の開催 ・市民の日、保健福祉センターフェスティバル、東海大学建学祭などを利用した啓発活動の実施 	【指標】 消費者教室・講座等の開催件数 H26 年度：27 回→ H32 年度：45 回 【H28 年度実績】 26 回 (対目標 79%)	B 概ね順調に進んでいる	数値目標を概ね達成 (75%以上) していることから、B 評価とした。

(2) 生きがいを持って安心して暮らせるまちづくりの推進

具体的な施策 (総合計画施策体系)		事業内容	平成 28 年度実績 (取り組み内容)	数値目標の達成状況 実績値 (H28 年度目標値 に対する達成率 %)	自己評価	自己評価の理由 (C 又は D 評価の場合は今後の対応 を明記)
50	子ども・子育て環境の充実 (2-1-2-1)	・地域の子育て支援サービスの充実を図るため、地域のバランスに配慮した、子育て支援センターの増設 ・民間の認定こども園及び認可保育所の誘致、認可保育所の定員拡大、一時預かり事業、家庭的保育、病時・病後時保育、利用者支援事業等の実施	・子育て支援センターについて、定住促進住宅「ミライエ秦野」内にぽけっと 21 ミライエを開設(平成 29 年 2 月 1 日)※市内 7 箇所目 ・渋沢保育園跡の民設民営による保育所の開設運営者の選定について、民間認可保育所設置運営に係るプロポーザルの実施(平成 28 年 8 月 23 日～9 月 26 日) 開設運営者：社会福祉法人「進和会」	【指標】 2 号・3 号支給認定子どもに対する利用定員(保育の確保量) H26 年度：1,784 名→ H32 年度：2,317 名 【H28 年度実績】 2,141 名(対目標 100.4%)	A 順調に進んでいる	数値目標を達成(100%以上)していることから、A 評価とした。
51	地域福祉活動体制の充実 (2-2-1-1)	・民生委員・児童委員や地区社会協議会の活動支援 ・成年後見制度の利用支援体制整備	・地域福祉活動計画に基づく、事業の実施及び進行管理を行った。 ・民生委員児童委員の一斉改選 ・成年後見人制度の利用支援や周知方法の検討に役立てるため、成年後見人制度のニーズ調査を行った。	-	A 順調に進んでいる	民生委員・児童委員について、定数 260 人に対し、258 人を選出し、充足率 99.2%を達成した。また、成年後見制度の利用支援体制整備については、利用支援や周知方法の検討に役立てるため、関係機関を対象とした成年後見制度のニーズ調査を予定どおり行うことができたため、自己評価を A とした。
52	地域包括ケアの推進 (2-2-2-2)	・地域高齢者支援センターの機能強化 ・介護予防・日常生活支援総合事業の推進 ・多職種が連携して在宅医療及び在宅介護を一体的に提供する体制を整備 ・多様な担い手による生活支援を進める地域支えあいの体制を整備	・地域高齢者支援センター事業 ・地域ケア会議推進事業(全 126 回) ・在宅医療・介護連携推進協議会の開催(全 3 回)/研修会の開催(全 2 回) ・認知症総合支援事業研究会の実施(全 11 回) ・生活支援体制整備事業：協議体設置研究会の開催(全 9 回実施)	【指標】 要介護等認定率 H26 年度：16.1%→ H32 年度：15.8% 【H28 年度実績】 13.20%(対目標 106%)	B 概ね順調に進んでいる	数値目標は達成しているが、住み慣れた地域で暮し続けるための体制整備の充実が課題であるため、自己評価 B とした。

具体的な施策 (総合計画施策体系)		事業内容	平成 28 年度実績 (取り組み内容)	数値目標の達成状況 実績値 (対目標%)	自己評価	自己評価の理由
53	ひとり暮らし高齢者等の安全・安心の確保 (2-2-2-3)	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅ひとり暮らし高齢者等の登録を推進 ・ひとり暮らし高齢者緊急通報システム事業の実施 ・ひとり暮らし高齢者等給食サービス事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らし高齢者登録者 2,760 世帯 ・高齢世帯登録者 1,959 世帯 ・緊急通報装置貸与数 59 台 ・ひとり暮らし高齢者等給食サービス事業配食数 6,888 食、実利用者数 86 人 	【指標】 ひとり暮らし高齢者等の登録世帯数 H26 年度：5,039 人→ H32 年度：5,622 人 【H28 年度実績】 4,719 人 (対目標 90%)	B 概ね順調に進んでいる	数値目標を概ね達成（75%以上）していることから、B 評価とした。
54	障害者の地域生活を重視した支援体制の充実 (2-2-3-3)	<ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉サービスや地域生活支援事業の充実 ・障害者施設機能の充実 ・多様な暮らしの場及び暮らしを支える拠点の整備促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者が地域で自立した生活が送れるよう、地域生活支援の充実を図った。 ・障害者支援施設等を障害者の地域生活を支える資源として活用できるよう補助事業を実施し、障害者の地域生活を支援した。 ・グループホームの整備費や家賃を助成し地域での暮らしを支援した。 ・地域生活支援センターの平成 29 年 10 月開設に向け、センターを設置運営する一般社団法人への支援に努めた。 	【指標】 本市援護実施者で市内外のグループホームの入居者数 H26 年度：133 人→ H32 年度：157 人 【H28 年度実績】 158 人 (対目標 112%)	B 概ね順調に進んでいる	数値目標は達成しているが、地域生活支援センター開設が現在進行中であるため自己評価を B とした。
55	地域ぐるみで取り組む健康づくり運動の推進 (2-3-1-2)	<ul style="list-style-type: none"> ・さわやか体操やウォーキングなど地域ぐるみで取り組む健康づくり運動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での体操会の実施 96 回 ・一般参加可能な自主体操会 7 か所 ・さわやか体操の出張講座 PTA 等 10 回、イベント準備体操として 4 回 ・秦野公衛会活動 自主体操会 3 か所 67 回、ウォーキング 3 回 ・健康づくりサポーターの養成・育成 (健康推進員 養成 16 人、現任研修 42 人) ・さわやかマスター (体操普及員) (登録 79 人、現任研修 46 人) 	【指標】 体操会 (ご近所体操会、丹沢あおぞら体操会等) の参加者数 H26 年度：1,384 人→ H32 年度：1,500 人 【H28 年度実績】 1,054 人 (対目標 75%)	B 概ね順調に進んでいる	数値目標を概ね達成（75%以上）していることから、B 評価とした。

具体的な施策 (総合計画施策体系)		事業内容	平成 28 年度実績 (取り組み内容)	数値目標の達成状況 実績値 (対目標%)	自己評価	自己評価の理由
56	スポーツ・レクリエーション人口の拡大 (2-3-2-1)	・「秦野市スポーツ推進計画」に基づき、幼少期から高齢期までのそれぞれのライフステージ、志向に合わせたスポーツ・レクリエーション活動（啓発、参加、支援）事業を展開する。	・チャレンジデーへの参加申請 ・武道祭、市民体育祭、中央納涼大会、スポーツレクリエーションフェスティバル、はだの丹沢水無川マラソン大会、駅伝競走大会、ニューイヤーウォーク in 弘法山、さわやかウォーク等の実施 ・公益財団法人秦野市スポーツ協会を設置し、関係団体の一元化を図った。 ・アンケート実施による効果測定 →スポーツ（意識して身体を動かす活動）の実施頻度については、「1 日 30 分以上」（2.3%）、「ほとんど毎日」（5.0%）、「週 2 回から 3 回程度」（12.3%）、「週 1 回程度」（14.5%）を合わせた『週 1 回以上（計）』の割合が 34.1%となった。	【指標】 週 1 回 30 分以上スポーツ・レクリエーション活動をする市民の率 H26 年度：33.6%→ H32 年度：50% 【H28 年度実績】 34.10%（対目標 87%）	B 概ね順調に進んでいる	数値目標を概ね達成（75%以上）していることから、B 評価とした。
57	家庭・地域との協働による学校づくりの取り組み (4-1-2-1)	・コミュニティ・スクールの導入 ・学校支援に係る地域の協力者との学校づくり (No. 32 の事業に含む)	・西中学校をコミュニティ・スクールに指定、堀川小学校を研究実践校に指定し、地域とともにある学校づくりを推進した。西中学校では地域支援者が増え、生徒たちと地域の交流が活性化された。	【指標】 学校支援ボランティアの協力者数（年間） H26 年度：2,122 人→ H32 年度：2,400 人 【H28 年度実績】 2,506 人(対目標 114%)	B 概ね順調に進んでいる	数値目標は達成しているが、コミュニティ・スクール学校運営協議会設立に向けた研究実践校を複数校想定していくことが必要という課題があるため自己評価を B とした。
58	魅力ある地域学習の推進 (4-2-1-2)	・秦野の自然、歴史、文化、産業等をはじめ、秦野の地域資源や現代の秦野を学ぶ機会を充実することにより、郷土に対する愛着をもち、住みよい地域社会の実現と地域力の向上を図る。	・ふるさと講座（年 7 回開催） ・たけのこ学級（年 11 回開催） ・広畑ふれあい塾の支援（69 講座、受講生 1340 人の活動を支援） ・放課後子ども教室の開催（上小学校の児童を対象に年 13 回開催） ・報徳サミットへの市民参加ツアーの開催及び講演会の実施	【指標】 ふるさと講座の実施回数 H26 年度：6 回→ H32 年度：10 回 【H28 年度実績】 7 回（対目標 88%）	B 概ね順調に進んでいる	数値目標を概ね達成（75%以上）していることから、B 評価とした。
59	地域コミュニティ活性化の促進 (5-1-2-4)	・地域コミュニティ活性化に関する活動拠点の整備等についての検討	・地域コミュニティ活性化に関する活動拠点の整備等についての庁内調整 ・地域コミュニティ団体の活動拠点支援策を整備（秦野市市民によるまちづくり事業交付金交付要綱を改正(H28.9.1)）	【指標】 地区まちづくり拠点設置箇所 H26 年度：0 箇所→ H32 年度：5 箇所 【H28 年度実績】 0 箇所（対目標 100%）	A 順調に進んでいる	数値目標を達成（100%以上）していることから、A 評価とした。

具体的な施策 (総合計画施策体系)		事業内容	平成 28 年度実績 (取り組み内容)	数値目標の達成状況 実績値 (対目標%)	自己評価	自己評価の理由
60	協働型事業の推進 (5-1-3-2)	・ NPO 法人や市民活動団体等との協働型 事業の実施	・ 秦野市提案型協働事業制度の創設 ・ 行政提案型協働事業 1 件、市民提案型協 働事業 2 件を採択	【指標】 市内で活動する認証 N P O 法人数 H26 年度：40 団体→ H32 年度：47 団体 【H28 年度実績】 46 団体 (対目標 102%)	A 順調に進ん でいる	数値目標を達成 (100%以上) してい ることから、A 評価とした。

基本目標 4 にぎわいと交流を創出する地域経済活性化プロジェクト

目的＞＞ 新東名高速道路の供用開始などの本市発展の契機を生かすとともに、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会をきっかけとした新たな「人の流れ」を捉えながら、まちのにぎわいの創出を図るなど、地域経済を活性化するプロジェクトに取り組みます。

【実現すべき成果に係る数値目標（KGI）】

○年間観光客数 206万人（H26現状値）→230万人（H31目標値）

○観光客の年間消費額 9億2,711万円（H26現状値）→10億2,360万円（H31目標値）

KPI（重要業績評価指標）の達成状況

1 地域資源を生かした活力ある地域づくりの推進

KPI	H31(2019) 目標値	H28(2016) 目標値	H28(2016) 実績値	達成率 H28(2016)
市内企業への就職者数（職業技術校卒業者の市内企業への就職者の人数）	72人	48人	29人	60.4% （求人数の減少による）
シティプロモーションに係る映画「じんじん」応援団ホームページ年間アクセス数	1,000,000件	120,000件	128,064件	106.7%
地産地消サポート協力事業所数	37店	33店	32店	97.0% （店舗の撤退による）

2 「秦野SA（仮称）スマートICを活かした周辺土地利用構想」の推進

KPI	H31(2019) 目標値	H28(2016) 目標値	H28(2016) 実績値	達成率 H28(2016)
秦野サービスエリア（仮称）周辺道路の整備率	92%	10%	10%	100.0%
従業員4人以上の事業所の1年間の製造品出荷額等（年間）	4,402億円	4,402億円	※4,553億円	103.4%
表丹沢野外活動センター年間利用者数	27,500人	25,000人	20,915人	83.7% （日帰り利用者の減少による）

※H27年度実績

《基本目標 4に係る具体的施策（小柱）自己評価結果まとめ》

基本的方向	区 分		事業数
地域資源を生かした活力ある地域づくりの推進	A	順調に進んでいる	4 事業
	B	概ね順調に進んでいる	6 事業
	C	やや遅れている	-
	D	遅れている	-
小計			10 事業
「秦野 S A（仮称）スマート I C を活かした周辺土地利用構想」の推進	A	順調に進んでいる	1 事業
	B	概ね順調に進んでいる	4 事業
	C	やや遅れている	2 事業
	D	遅れている	-
小計			7 事業
合 計	A	順調に進んでいる	5 事業
	B	概ね順調に進んでいる	10 事業
	C	やや遅れている	2 事業
	D	遅れている	-

※小柱の数 17 事業

市による自己評価の総括

B 概ね順調に進んでいる

具体的施策（小柱）17 事業のうち、A 評価（5 事業）及び B 評価（10 事業）の合計は 15 事業であり、K P I も 6 項目中半数の 3 項目で目標値を達成していることから、施策は概ね順調に進んでいます。

外部評価

市による自己評価の総括は妥当です

- ・市内企業がインターンシップを受入れる機会を積極的に創出する必要があります。
- ・地域経済活性化、円滑な施策の実施に向け、より一層、産官学金労言の連携強化が必要です。
- ・地域経済活性化に向けては、農業、観光はもとより、企業誘致により一層努力すべきです。
- ・各施策をシティプロモーションとして位置付け発信していくことが重要です。

(1) 地域資源を生かした活力ある地域づくりの推進

具体的な施策 (総合計画施策体系)		事業内容	平成 28 年度実績 (取り組み内容)	数値目標の達成状況 実績値 (H28 年度目標値 に対する達成率 %)	自己評価	自己評価の理由 (C 又は D 評価の場合は今後の対応 を明記)
61	効率性・利便性の 向上を目指したバ ス路線網の再構築 (1-2-3-2)	・まちづくりと連携しながら、効率的で 持続可能なバス路線網の再編に向けて 検討する。 ・市民や来訪者にとって利用しやすいノ ンステップバスの導入を支援し、バス利 用の促進を図る。 (N o . 21 の事業と同じ)	・市内バス路線網の再編について神奈川中 央交通 (株) と協議・検討 1 回 ・ノンステップバスの導入支援 3 台	-	B 概ね順調に 進んでいる	ノンステップバスの導入支援 3 台に ついては実施したが、バス路線網の 再編については神奈川中央交通(株)と 継続して協議・検討を行っているこ とから自己評価を B とした。
62	県立西部総合職業 技術校及び大学・ 高等学校と市内企 業等との連携推進 (3-1-2-5)	・県立西部総合職業技術校における職業 能力開発推進協議会への支援 ・県立西部総合職業技術校の運営等への 市内企業の参画を促進 ・大学及び高等学校と市内企業との連携 による市内企業への就職を促進	・合同就職説明会について市広報への掲載 ・職業能力開発推進協議会への参加 ・高校生の市内企業への就職促進に係る事 業の計画	【指標】 職業技術校卒業者の市内 企業への就職者数 H26 年度：32 人→ H32 年度：80 人 【H28 年度実績】 29 人 (対目標 60%)	B 概ね順調に 進んでいる	数値目標は未達成 (75%未満) であ るが、高校生の市内企業への就職促 進に係る事業などが順調に進んでい るため、総合的な評価として自己評 価を B とした。
63	源泉を活用した魅 力ある新たな観光 資源の創出 (3-3-1-1)	・新源泉「つるまき千の湯」を活用して、 新たな源泉の観光資源としての価値を 最大限引き出す。 ・新たな温泉施設の整備 ・周辺観光資源も活用した誘客策	・まちづくり・経済活性化支援事業におい て、観光ニーズ等把握のためのアンケート の実施、需要予測及び鶴巻温泉周辺の活性 化に向けた会議の準備を行った。 ・弘法の里湯及び民間旅館に F r e e W i - F i を設置するとともに、伊勢原市・ 厚木市とともに多言語化対応の大山めぐ りルートガイドアプリの開発を行った。 ・老人福祉施設につるまき千の湯を配湯 し、温泉街の魅力向上を図った。	【指標】 弘法の里湯入館者数 H26 年度：156, 806 人→ H32 年度：157, 000 人 【H28 年度実績】 160, 020 人 (対目標 103%)	B 概ね順調に 進んでいる	数値目標は達成しているが、訪日外 国人向け案内看板の設置という課題 があるため自己評価を B とした。

具体的な施策 (総合計画施策体系)		事業内容	平成 28 年度実績 (取り組み内容)	数値目標の達成状況 実績値 (対目標%)	自己評価	自己評価の理由
64	花のある観光地づくりの推進 (3-3-1-4)	<ul style="list-style-type: none"> ・弘法山、震生湖、田原ふるさと公園周辺等の農地の活用 ・新たな花のある観光地づくりの検討 ・桜の植樹及び育樹の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・菜の花、ポピー、黄花コスモスをハイキングコース周辺の約 35,000 m²に栽培し、観光地の景観創出に努めた。 ・弘法山及び表丹沢野外活動センターに 5 種類、88 本の桜の植樹を行った。 ・育樹事業として、おかめ桜の育樹祭の開催や樹木医による育成状況診断を行った。 	【指標】 栽培面積の拡大（農家との契約栽培面積） H26 年度:12,744 m ² →H32 年度:15,000 m ² 【H28 年度実績】 26,789 m ² (対目標 203%)	B 概ね順調に進んでいる	数値目標は達成しているが、ハイキングコース周辺の開花内容が天候等により良好ではなかったという課題があるため自己評価を B とした。
65	地産地消の推進 (3-4-2-1)	<ul style="list-style-type: none"> ・市内農産物の地元消費拡大を図る ・環境にやさしい農業の推進 ・食と農の理解の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・農産加工起業セミナーの実施、地産地消活動支援事業補助金の交付 ・環境にやさしい農業に取り組むエコファーマー認定者に対する補助金の交付 ・親子で野菜の収穫から料理まで行う「親子地場産野菜教室」の開催 	【指標】 地産地消サポート協力事業所数 H26 年度:31 店→H32 年度:37 店 【H28 年度実績】 32 店 (対目標 97%)	A 順調に進んでいる	数値目標は未達成であるが、サポーター店舗は微増しているため自己評価を A とした。
66	観光農業等の推進 (3-4-2-2)	<ul style="list-style-type: none"> ・体験型農業の拡充と周年型観光農業の促進 ・観光農園や体験農園に取り組む農業者や農業者団体の創出 ・新東名高速道路秦野サービスエリア周辺における観光農業の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験型農業の拡充と周年型観光農業の促進 →新たな事業として、たまねぎの収穫体験事業を追加し実施した。 ・観光農園や体験農園に取り組む農業者や農業者団体の創出 →新たに 2 団体が掘り取り観光農園に参画した。 ・新東名高速道路秦野サービスエリア周辺における観光農業の促進 → J A はだのとの意見交換会や地域振興・農業生産部会を開催した。 	【指標】 体験型農業参加区画数 H26 年度:250 件→H32 年度:300 件 【H28 年度実績】 303 件 (対目標 117%)	B 概ね順調に進んでいる	数値目標は達成しているが、新東名周辺の観光農業の促進について、具体的な施策成果を出せていないため、自己評価を B とした。
67	ボランティア団体による里山林保全整備に対する支援 (3-5-2-3)	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア団体等による活動への支援や、地域連携保全活動計画を踏まえた活動により、里山保全整備を活発化させる。 ・活動による副産物の販売を通じて、団体等の安定した自力運営を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内 4 地区ごとに地元協力者、ボランティア団体等と連携し、里地里山の整備、田植え、里山めぐり等の各種事業を実施。 ・里山ボランティア養成研修を通じ、担い手の確保に努めた。（里山めぐり等の事業実施数 14、里山ボランティア養成研修修了者数 20 人） 	【指標】 里山めぐり等の実施回数 H26 年度:11 回→H32 年度:12 回 【H28 年度実績】 14 回 (対目標 117%)	A 順調に進んでいる	数値目標を達成（100%以上）していることから、A 評価とした。

具体的な施策 (総合計画施策体系)		事業内容	平成 28 年度実績 (取り組み内容)	数値目標の達成状況 実績値 (対目標%)	自己評価	自己評価の理由
68	シティプロモーションの推進 (5-1-1-2)	・地域資源を生かし、秦野らしさの魅力を高める施策の効果的な発信	<ul style="list-style-type: none"> ・【新規】山の日イベントプロモーションの実施 (7/16～8/31) ・【新規】ハダ恋桜イベントプロモーションの実施 (3/1～4/30) 	-	A 順調に進んでいる	2 事業についてアンケートを実施したところ、インターネットアンケートでは、事業の継続を望む声がどちらも 7 割を超えるとともに、参加した商業者等に対し実施したアンケートでは、「来客数及び売上が前年を上回った」との回答が山の日イベントでは 3 割、桜イベントでは 5 割をそれぞれ超える結果となった。このことから 2 事業について事業効率が高いと判断し自己評価を A とした。
69	大学との連携の推進 (5-1-3-4)	・大学（東海大学及び上智大学短期大学部）との連携による市民、学生が参加する事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画に基づく各種提携事業の実施 ・近道商店街エスカレーターの設置 ・東海大学「To-Collabo プログラム」評価委員会委員 ・上智大学短期大学部「三つのポリシーの視点から、本学の取り組みの適切性を確保するための自己点検・評価会議」における評価の実施 	-	A 順調に進んでいる	近道商店街エスカレーターの設置をはじめ、講師派遣等の提携事業等について、順調に進んでいるため、自己評価を A とした。
70	広域連携による誘客の推進 (5-3-3-3)	<ul style="list-style-type: none"> ・高規格道路網の整備が進むことから、より遠方からの来訪が可能となるため、近隣自治体との連携強化により観光客誘致の方策等を検討する。 ・近隣自治体と連携した観光情報の発信強化 ・広域的な観光ルートの検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・地方創生加速化交付対象事業として「つながる大山プロジェクト～アプリが結ぶ悠久の歴史・安らぎの霊峰～」を伊勢原市、厚木市とともに実施し、スマホアプリの開発や多言語映像コンテンツの発信などを行った。 ・秦野駅観光案内所や弘法の里湯に Free Wi-Fi を整備した。 	-	B 概ね順調に進んでいる	スマホアプリを開発・運用し、秦野駅観光案内所及び弘法の里湯に Free Wi - Fi を整備したが、運用方法に改善点があるため自己評価を B とした。

(2) 「秦野SA（仮称）スマートICを活かした周辺土地利用構想」の推進

具体的な施策 (総合計画施策体系)		事業内容	平成 28 年度実績 (取り組み内容)	数値目標の達成状況 実績値 (H28 年度目標値 に対する達成率 %)	自己評価	自己評価の理由 (C 又は D 評価の場合は今後の対応 を明記)
71	新東名高速道路秦野 SA (仮称) 周辺道路の整備 (1-2-1-2)	・新東名秦野サービスエリア (仮称) スマートインターチェンジアクセス道路等の整備	・アクセス道路等の用地取得	【指標】 SA 周辺道路の整備率 H26 年度：0%→ H32 年度：100% 【H28 年度実績】 10% (対目標 100%)	A 順調に進んでいる	数値目標を達成 (100%以上) していることから、A 評価とした。
72	高規格幹線道路等の整備促進 (1-2-1-6)	・新東名高速道路、246 号バイパスの整備促進	・建設工事 (本線、高取山トンネル付近、秦野 SA 付近の埋蔵文化財調査。羽根トンネルの上り線 2900m が貫通。秦野 IC 付近の用地買収が完了。葛葉川橋の工事用道路の仮設橋を設置) ・年 2 回 (夏と秋) 国道 246 号バイパスの要望活動の実施、測量・地質調査 (ボーリング) を実施。	-	C やや遅れている	新東名高速道路建設工事では、埋蔵文化財発掘調査の対象面積が広く、また、遺跡が何層にも渡り、調査に時間を要しているため、自己評価を C とした。 【今後の対応】 県教育委員会に対して「調査体制の強化」や「調査効率の向上」について要望していく。
73	新市街地ゾーンの土地利用の検討 (1-2-2-4)	・インターチェンジやサービスエリア周辺の土地利用の具体化に向けた検討を行う。 ・土地利用に向けた基礎調査等 (戸川、西大竹)	・地元合意形成の促進 (まちづくり勉強会：4 回、地権者意向調査の実施) ・まちづくり基本構想案の作成 (委託業務の実施) ・関係機関への事前相談 (県都市計画課、県河川砂防課、県森林課、県警本部など) ・中井町との調整 (3 回)	-	B 概ね順調に進んでいる	戸川地区については、都市的土地利用の実現に向け、平成 31 年度末の市街化区域編入 (事業着手) を目指し、概ね所定のスケジュールで進めているため、自己評価を B とした。 なお、西大竹地区についても、今年度より測量等の調査業務に着手した。
74	表丹沢野外活動センターの機能及び利便性の充実と事業の拡大 (2-1-3-1)	・昔の生活学習館の建設 ・敷地内道路の拡幅 ・炊事棟の増設 ・第 2 駐車場の確保 ・周辺の土地買収による野外センター敷地の拡張	・昔の生活学習館の建設 土間 10 畳、いろいろの間 10 畳、畳の間 6 畳、縁側、台所、みんなのトイレなど 延床面積：76.51 m ²	【指標】 表丹沢野外活動センター年間利用者数 H26 年度：23,251 人→H32 年度：28,000 人 【H28 年度実績】 20,915 人 (対目標 84%)	C やや遅れている	数値目標は概ね達成 (75%以上) しているが、いろいろ棟 (昔の生活学習館) の建設が繰越となり、事業計画が遅れたため、自己評価を C とした。 【今後の対応】 いろいろ棟 (昔の生活学習館) 等の施設を有効活用した誘客を進める。

具体的な施策 (総合計画施策体系)		事業内容	平成 28 年度実績 (取り組み内容)	数値目標の達成状況 実績値（対目標％）	自己評価	自己評価の理由
75	産業用地と工業系未利用地への企業誘致及び企業の施設再整備への支援（3-1-1-1）	<ul style="list-style-type: none"> ・秦野市企業等の立地及び施設再整備への支援に関する条例(企業誘致条例)の活用促進 ・県及び金融機関等との連携による情報収集 ・企業への誘致活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度から企業誘致条例の適用を受けた企業は 1 社。 ・平成 28 年度中に条例の適用を受ける見込みで操業した企業は 2 社。（条例の適用は、平成 29 年度と平成 30 年度から） 	【指標】 新規立地及び施設再整備企業数（企業誘致条例の優遇措置適用企業数（毎年）） H26 年度：4 社→ H32 年度：3 社 【H28 年度実績】 1 社（対目標 33％）	B 概ね順調に進んでいる	数値目標は未達成（50％未満）であるが、平成 28 年度中に操業した企業は 2 社あったことから、新たな企業立地可能な土地が不足しているという課題がある中で、企業誘致が着実に進んでいるため総合的な評価として自己評価を B とした。
76	県立秦野戸川公園周辺の地域資源を活用した観光振興（3-3-1-5）	<ul style="list-style-type: none"> ・表丹沢の拠点施設である秦野戸川公園を中心に、周辺の観光施設を有機的に結び付け、山の魅力を創出した一体性ある観光振興を推進する。 ・市所有の山小屋である大倉高原山の家と秦野戸川公園周辺の水無川堰堤、滝、湧水等をルート化した山岳ハイキングコースの創設 	<ul style="list-style-type: none"> ・地方創生推進交付金対象事業として、観光・地域資源の現状把握調査や会議の立ち上げ、秦野 S A 周辺を拠点とした周遊ルートや整備に向けた方針づくりを行うなど、秦野市スローライフ体験事業検討支援事業を進めた。 ・三ノ塔及び大山ルートに多言語化した緊急時連絡先看板やトイレの使用方法看板を設置した。 	【指標】 大倉地区観光客数(年間) H26 年度：239,936 人→ H32 年度：264,500 人 【H28 年度実績】 753,588 人(対目標 308％)	B 概ね順調に進んでいる	数値目標は達成しているが、大倉高原山を家の建物明渡請求の民事訴訟中であり、ハイキングルート計画が遅れているため自己評価を B とした。
77	観光農業等の推進（3-4-2-2）	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスエリア周辺における観光農業の促進（N o. 66 の事業に含む） 	<ul style="list-style-type: none"> ・新東名高速道路秦野サービスエリア周辺における観光農業の促進→ J A はだのとの意見交換会や地域振興・農業生産部会を開催した。 	【指標】 体験型農業参加区画数 H26 年度：250 件→ H32 年度：300 件 【H28 年度実績】 303 件（対目標 117％）	B 概ね順調に進んでいる	数値目標は達成しているが、新東名周辺の観光農業の促進について、具体的な施策成果を出せていないため、自己評価を B とした。

4 外部評価の総括

- (1) 秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（秦野市総合計画後期基本計画リーディングプロジェクト）に係る平成28年度評価について、市による自己評価の総括が妥当であるか否かという観点から、秦野市行財政調査会「行財政経営専門部会」において、外部評価を行いました。

その結果、4つの基本目標（大柱）について、いずれも「概ね順調に進んでいる」という市による自己評価の総括は妥当であり、平成28年度の取組みは全体として、概ね順調に進んでいると評価します。

- (2) K P I の目標値と実績（達成率）との乖離が生じている項目については、P D C Aサイクルの確立に向け、原因究明と課題の精査、並びに次年度以降のアクションプランの見直しが必要です。

- (3) 市総合戦略では、各施策の効果を客観的に検証できるようにするため、K P I を設定していますが、市民に進捗状況をよりわかりやすく示していくためにも、必要に応じて、市民目線に立った指標の追加、見直しが必要です。

- (4) 総合戦略全体を通じて、社会情勢の変化や市民の声、ニーズを吸い上げることにより、次年度以降の各施策へ反映させることが必要です。

- (5) 市の各部局による自己評価については、数値目標の達成状況を基準とし、そのほか、課題や取組み状況を勘案した総合評価となっていますが、部局間により評価の温度差が感じられるため、次回の評価に当たっては、その点を留意する必要があります。また、数値目標を設定していない事業については、評価の客観性を担保し、よりの確な自己評価を行うために、数値目標の設定が必要です。